

令和5年度大阪府がん診療連携協議会 薬物療法連携部会 第2回ワーキング 議事録

日 時 2023年9月27日(水) 14時00分～15時35分

場 所 大阪国際がんセンター1階大講堂

参加施設 国指定18施設 23名、府指定26施設 26名、大阪府薬務課 1名 (院内 12名)

1. 開会挨拶 (部会長：高木)

現状調査アンケートの内容についての意見聴取を第1回ワーキングとし、本日第2回ワーキングはアンケートの結果の報告とそれを踏まえて議論を進める。

薬物療法連携部会 HP が新設された。活動計画、活動実績(部会やワーキングの議事録、がん薬物療法認定薬剤師研修の案内(準備中))の掲載あり。薬物療法連携部会構成施設専用のIDとPWを設け、「一部の限定的な医療機関でのみ実施される薬物療法」や「現状調査アンケート結果」を閲覧予定とする(準備中)。

2. 各医療圏代表施設(国拠点病院)からの挨拶 (部会長：高木)

部会長より、副部会長2名が指名された(大阪大学医学部附属病院：山本先生、大阪市立総合医療センター：中尾先生)。また、国拠点病院からの挨拶があった。今後、二次医療圏での活動が必要となるため、本日は二次医療圏毎の着席とし、情報交換の時間が設けられた。

3. 現状調査アンケートの結果報告について (部会長：高木)

67施設中59施設より回答があった。締切期日後の8月31日分までの集計である。主要な項目のみ報告があった。アンケート結果は当部会 HP に今後掲載予定(前述)。今回のアンケート結果を、相互交流、人員要求等の環境改善等に活用していただきたい。

本部会の課題としているトレーシングレポート(以下、TR)の共有化については、TR受取件数の施設間差が大きく、また特定の保険薬局のみ(2あるいは3薬局)TRが来ると回答している施設も多かった。保険薬局からのTR報告方法としては、FAX利用が最も多いが、メールやDrJOY、Googleフォーム、郵送を行っている施設もあった。DrJOYを活用している施設によると、医療機関であれば無料での使用が可能で、TRデータをDrJOYに添付して送信している、メリットとしてFAXによる誤送信を防ぐことができると説明された。郵送を活用している施設によると、FAXの無い時代からの運用で主に呼吸器の吸入指導でTRを活用していると説明された。また、エクセルを用いたTRを公開して施設があり、がん治療に不慣れた保険薬局薬剤師からのハードルを下げるためにもWGを月1回開催して内容を取り纏め、市内の医療機関で共有している状況が説明された。

自施設や地域におけるがん化学療法関連TRを作成している施設は59施設中15施設であった。その内容は、化学療法全般が8施設と最も多く(内、4施設がCTCAEの記載有)、その他、irAE、S-1、Cape、TAS102、EGFR-TKI、マルチキナーゼ阻害薬、CDK4/6阻害薬が作成されていた。8施設の化学療法全般のTRを例示した。

がん化学療法関連 TR の共有化にあたり自施設等で進めていく上での問題点として、既に実施している地域との兼ね合いや、受け取った病院側の対応（受け取った後の院内での運用・業務量増）等が挙げられた。また、共有化する TR を作成するにあたっての問題点として、細分化のデメリット、保険薬局への周知、TR 受け取り後の施設間での対応の違い等が挙げられた。

TR や薬薬連携についての問題点として多く挙げられたことは、FAX 運用に対する疑問、TR の件数の少なさ、保険薬局や病院の負担増、人員不足等であった。

TR について現状は様々な様式で作成され統一されておらず、保険薬局との連携が十分に行われていないようである。当部会としては大阪府下における CTCAE に基づく TR の共有化を進めていきたいと考えており、二次医療圏単位での共有化を含めて検討していきたい。今年度はワーキングを通してがん薬物療法全般の CTCAE 版の TR を作成する。次段階として、個別の抗がん剤に対する TR を作成する際には、①ひな形の作成、②既に作成されている場合は統合、③新規作成する場合はひな形を使用し、ワーキンググループあるいは各施設で作成したものを部会の承認を得て大阪府下で共有するという方針を考えている。また、作成に当たっては大阪府薬剤師会（保険薬局）にも協力を要請し、保険薬局への周知としては大阪府薬務課と大阪府薬剤師会へ情報共有する。受け取り側の病院側の注意点として、薬物療法連携部会作成の TR の受取は断らないことを周知したい（院内の運用は各施設に一任）。

TR の共有化について、①取り組み前後での評価を行うこと、②CTCAE に基づく評価の検討、③がん診療連携拠点病院以外の施設にも周知・協力体制の構築を作るべきであること、④薬局間でも TR を統一化することが検討されており、薬剤師会とのすり合わせも必要であること、⑤コアメンバーを募り作成してはどうか、といった意見が出された。

Google フォームを使用し今後の方向性について皆様にご意見を伺いたいと考えており、併せてコアメンバーも募る。その後、集合研修開催の是非も検討したい。コアメンバーミーティングの日程は、参加していただく施設と調整していく。

二次医療圏においても部会を開催したほうが良いかとの意見が出された。➡二次医療圏毎で活動していく必要があるが、今年度より開始となった部会であるため、まずは大阪府全体で進めて行きたいと考えている。

4. 閉会挨拶 （大阪府薬務課：嶋田課長補佐）

TR の統一化は喫緊の課題である。できるだけ統一した TR を作成することを進めていただきたい。大阪府薬務課としても、専門医療機関連携薬局と連携・周知していきたい。

※第 2 回薬物療法連携部会は 2024 年 3 月 7 日大阪国際がんセンター1 階大講堂にて開催予定。

以上

（追記）議事録内の現状調査アンケート結果報告の施設数については、アンケート記載漏れ等が確認された。正しい施設数については、HP で改めて掲載する。